彦根城博物館だより

109
2015.6.1

Hikone Castle Museum News

直弼のこころ

幕末に大老となった彦根藩主 井伊直弼。生誕二〇〇年の今年、その人物像を探るべく直弼にスポットを当てた展覧会を五回連続で開催します。

企画展

8/21(金)
〜
9/15(火)

直弼のこころ

忠義の人 遠城謙道
―主君直弼への思いと禅画―

茶の湯画賛 遠城謙道筆
当館蔵（奥村武彦氏寄贈）

呑やうもしらぬおやぢも（親父）（知）
茶の湯哉

彦根藩足軽出身の禅僧、遠城謙道（一八二三〜一九〇一）が描いた画賛。右の僧侶は謙道自身、場所は彼の庵でしょう。

謙道の手がけた画賛は多く、本作のような洒脱なものもあれば、知人の追善時に描いた神妙な作もあります。

彼の晩年を知るある人物は、謙道の飄々とした姿勢は解脱の境地であったことを、禅を修養して初めて分かったと述懐しています。これら画賛からもその境地が滲み出ているのかもしれません。

展覧会情報

テーマ展
6月1日 ▼▼ 7月7日
大坂の陣四〇〇年
彦根藩士たちの大坂夏の陣

特集展示
6月1日 ▼▼ 7月7日
滋賀県指定有形文化財指定記念
彦根藩井伊家歴代の甲冑

テーマ展
7月10日 ▼▼ 8月18日
直弼のこころ
井伊直弼のことば
―手紙にあらわれた人柄―

特別展
9月18日 ▼▼ 10月20日
直弼のこころ
一期一会の世界
大名茶人井伊直弼のすべて

展示案内 6月～9月

常設展示 “ぼんもの”との出会い
―彦根藩井伊家伝来の大名道具を中心に八〇点あまりを展示―

テーマ展　展示室1

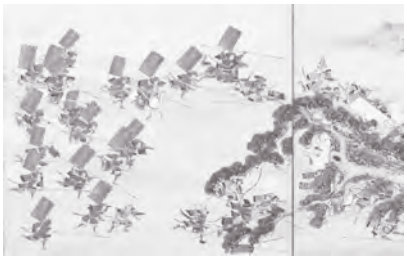
大坂の陣四〇〇年

彦根藩士たちの 大坂夏の陣

6/1（月）～7/7（火）

慶長十九年（一六一四）の大坂冬の陣に続き、その翌年に起こった夏の陣は、徳川方と豊臣方との最終決戦となりました。徳川方の有力部隊として出陣した井伊直孝の「赤備え」隊は、徳川方勝利へとつながる大きな戦果を挙げました。

本展では、夏の陣において、赤備えの一員として奮闘する彦根藩士達の姿を紹介します。



▶大坂夏の陣図（若江合戦図）部分

◉ギャラリートーク◉
■日時　6月6日（土）
11時～、14時～
■講師　青木 俊郎（当館学芸員）

特集展示　展示室2

滋賀県指定有形文化財 指定記念

彦根藩井伊家 歴代の甲冑

6/1（月）～7/7（火）

当館は、彦根藩井伊家の歴代当主や子弟の所用とされる朱漆塗の甲冑25領を所蔵しています。いずれも堂々とした勇壮な姿で、制作された時代の流行や好みなどが反映されています。

これらは、戦国期から江戸後期に至る甲冑の様式の特色がうかがえる一群として高く評価され、平成27年3月に滋賀県の有形文化財に指定されました。本展では、このうち主な甲冑11領を紹介します。

▶朱漆塗燻革威縫延腰取二枚胴具足（二代直孝所用）

◉ギャラリートーク◉
■日時　6月6日（土）
11時30分～、14時30分～
■講師　古幡 昇子（当館学芸員）

テーマ展　展示室1

直弼のこころ

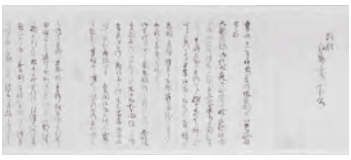
井伊直弼のことば

―手紙にあらわれた人柄―

7/10（金）～8/18（火）

井伊直弼はその生涯のなかで、数多くの書状を認め、印象的なことばをいくつも残しています。直弼がつづっているのは、幕府の政治に対する考えや井伊家の家格への思い、あるいは自身の性格や暮らしに至るまで、実にさまざまです。

当館には、こうした直弼自筆の書状が多数残されています。本展では、そのなかから選りすぐったものを紹介し、一つ一つのことばを手がかりに、直弼の人柄に迫ります。



▶別段存寄書下書 冒頭

◉ギャラリートーク◉
■日時　7月11日（土）
11時～、14時～
■講師　松浦 智博（当館学芸員）

企画展　展示室1

直弼のこころ

忠義の人 遠城謙道

―主君直弼への思いと禅画―

8/21（金）～9/15（火）

大老であり彦根藩主であった井伊直弼が倒れた桜田事変。同藩足軽の遠城謙道（一八二三～一九〇一）は、幕府の対応に憤り、仲間とともに上訴を試みるも果たせず、独り出家して三十七年の長きにわたって豪徳寺（現東京都世田谷区）にある直弼の墓を守り続けました。

本展は、謙道ゆかりの品々および数多く手がけた画賛を通じてその生涯をたどろうとするものです。

▶遠城謙道肖像写真

◉ギャラリートーク◉
■日時　8月22日（土）
11時～、14時～
■講師　髙木 文恵（当館学芸員）

研究余録

金亀玉鶴

井伊直中隠居時代の彦根藩政

文化九年（一八一二）二月五日、井伊家十一代当主直中は、子の直亮に家督を譲り、隠居しました。直亮はすでに十九才ではありましたが、四七才のいかにも早い隠居でした。同年四月には、江戸から彦根に帰り、彦根城内の槻御殿を住居に定めました。槻御殿の建物は増築され、本格的な能舞台が建てられるなど、同十五年頃にはその規模は最盛期を迎えました。直中が資金を注ぎ込み、悠々自適の隠居生活を送った時期でした。しかし当時は一方で、藩財政が悪化し、倹約政策が行われていました。この矛盾する状況は、どう理解すべきなのでしょうか。彦根藩井伊家文書（彦根城博物館蔵）の「御省略一件書抜」により、この点を考えてみましょう。

同史料の冒頭に載せられた文政元（一八一八）年十二月の藩の諸役所宛て家老達書では、役所の経常経費を五年の間、毎年二割削減することが命じられています。この達書の文中で、「両御殿」があり経費が嵩んでいるため槻御殿の費用は別立てにしてほしいとの意見が幾つかの役所から出されていると記されています。「両御殿」とは、藩主の住居である表御殿と直中の槻御殿のことです。当時、槻御殿の運営に藩の諸役所の経費が当てられていたことと、それが役所の会計を圧迫していたこととが分かります。

なお、文政十二年に藩が積算した予算によれば、一年に藩から直中に支給された米は九五〇〇俵で、内一二〇〇俵（＝四八〇石）が米で渡され、残る八二〇〇俵は銀一九五貫五〇目（＝金約三〇〇〇両）に換えられ渡されています。この米は、藩の年間収入見積額二八万一三〇五俵の三・四％に当たり、ほぼ一万石の大名の収入に匹敵します。

続いて同史料には、文政三年二月十五日に直中が家老役に宛てた直書が記されています。その内容は、①近年、物入りが続き藩財政が困難であったところ、旧年冬に直亮と家老から直中に「世話」するように再三の依頼があり一旦は承知したが、根本で「世話」する事は好まず、その上少々の子細もあり断った、②その後、事ごとに直亮から話があり、心配の様子なので捨て置けなくなり、直中から直亮に、しばらくの「世話」は承知したので安心して江戸に出府（参勤）するようにと返答した、③よって諸役人は無益の費用を省略し倹約に精勤せよ、というものでした。この日は、直亮が参勤のため彦根から江戸に発つ前日でした。四日前には、藩士に対する八ヵ条の倹約令が直亮の名前で出されていました。

この時、直亮は、父直中の「世話」により、彦根における藩財政の倹約を推し進めようとしました。一方、直中は最終的には「世話」を承諾はしたものの、その意思が二転三転しており、積極的な姿勢は示していません。直亮が直中の経験と指導力、権威に頼ったと見るのが素直なのかもしれません。しかし、右で見た当時の槻御殿の費用負担の問題を考慮した場合、直亮の意図としては、直中にも財政問題の当事者として相応の責任を求めたという所が事の真相と思われます。実際、後年の直亮は、直中の槻御殿のあり方が奢侈なものであったことを批判的に述べています。当時の彦根藩政の状況を理解するためには、「両御殿」体制とその矛盾という点が今後解明される必要があると考えます。

（渡辺 恒一）

▶井伊直中画像（彦根・清涼寺蔵）

能・狂言

◉水無月狂言の集い◉

■開催日時・場所
6月27日（土）18時30分開演（18時開場）

■演目
大蔵流狂言　【解説】茂山　童司
「墨塗」茂山　あきら
「千鳥」茂山　茂
「蝸牛」茂山　千三郎

■チケット
全席指定
A席（正面席）3千5百円
B席（脇正面席）3千円
6月1日発売開始

◉井伊直弼公生誕200年祭関連事業　第49回 彦根城能◉

今年は井伊直弼の生誕から二〇〇年。直弼ゆかりの演目を上演します。

■開催日時・場所
9月22日（火・休）15時30分開演（15時開場）

■演目
喜多流素謡「筑摩江」高林白牛口二
大蔵流狂言「鬼ケ宿」茂山　千五郎
喜多流　能「竹生島」女体　粟谷　能夫

■チケット
全席指定
A席（正面席）5千5百円
B席（脇正面席）5千円
8月22日発売開始

＊開演時刻・演目・出演者等は、都合により、やむなく変更することがございますのでご了承ください。
＊チケットは当館受付およびお電話にてお求めいただけます。
（発売初日は、館内販売9時～、電話予約10時～）
＊未就学児の入場はお断りいたします。

スケジュール 6月〜9月

6月

6土 ギャラリートーク
大坂の陣四〇〇年
彦根藩士たちの大坂夏の陣
滋賀県指定有形文化財 指定記念
彦根藩井伊家歴代の甲冑

13土 出張講座
あなたの街の歴史探訪
（南地区公民館）

20土 教室 古文書のみかた①

27土 能・狂言 水無月狂言の集い

7月

4土 出張講座
あなたの街の歴史探訪
（旭森地区公民館）

11土 ギャラリートーク
直弼のこころ
井伊直弼のことば
―手紙にあらわれた人柄―

25土 教室 古文書のみかた②

8月

22土 ギャラリートーク
直弼のこころ
忠義の人 遠城謙道
―主君直弼への思いと禅画―

29土 教室 古文書のみかた③

9月

12土 教室 古文書のみかた④

19土 講演会 特別展関連講演会①
「井伊直弼の茶の湯」

22火・休 能・狂言 第49回彦根城能

26土 ギャラリートーク
直弼のこころ
一期一会の世界
大名茶人井伊直弼のすべて

特別展	企画展	テーマ展	テーマ展・特集展示
直弼のこころ 一期一会の世界 大名茶人 井伊直弼のすべて 9/18 ～ 10/20	直弼のこころ 忠義の人 遠城謙道 ―主君直弼への思いと禅画― 8/21 ～ 9/15	直弼のこころ 井伊直弼のことば ―手紙にあらわれた人柄― 7/10 ～ 8/18	大坂の陣 400 年 彦根藩士たちの大坂夏の陣 滋賀県指定有形文化財 指定記念 彦根藩井伊家歴代の甲冑 6/1～7/7

常設展示 “ほんもの”との出会い

9/15-17 展示替により一部休室
8/19・20 展示替により一部休室
7/7-9 展示替により一部休室

＊「古文書のみかた」は事前申込制です。

催し

◉彦根城博物館出張講座「あなたの街の歴史探訪」◉

彦根市内の各地域は、実に個性的な歴史に彩られています。本講座では、当館学芸員が公民館地区ごとにテーマを設けて、その歴史についてわかりやすく紹介します。また、地域の文化財を紹介するミニ講座「セレクト文化財」もあわせて行います。

■開催日時・場所・内容
第3回 6月13日（土）
南地区公民館 定員100名
「朝鮮人街道の歴史」
セレクト文化財
「八坂・善敬寺の親鸞聖人絵伝」

第4回 7月4日（土）
旭森地区公民館 定員70名
「中山道周辺の村々の歴史」
セレクト文化財「石清水神社の扇塚」
＊各回とも、午前10時から11時30分まで

■資料代
各回100円

■受講方法
当日受付
（事前申し込み不要。先着順）

◉キッズサマースクール◉

夏休み期間中、狂言や茶道などの伝統文化や歴史に親しむ「キッズサマースクール」を開催します。バラエティに富んだプログラムを準備しましたので、ふるってご応募下さい。

【内容・日程】
①狂言教室（小学5・6年生対象）
■日程
7月18日（土）、19日（日）、20日（月・祝）、8月8日（土）、9日（日）、15日（土）の午後2時30分～4時30分、16日（日）の午後1時～4時30分（予定）
■講師
和泉流狂言師 小笠原匡氏ほか
■定員 12名（応募者多数の場合は抽選）

②博物館体験（小学1～6年生対象）
■内容 博物館探検、茶の湯体験など
■日程 8月4日（火）、5日（水）
1～3年生：午後1時30分～3時30分
4～6年生：午前10時～12時
■講師 当館学芸員
■定員 1～3年生：40名
4～6年生：20名
（応募者多数の場合は抽選）
【会場】 当館（能舞台・講堂 他）
【対象】
原則として彦根市・米原市・豊郷町・甲良町・多賀町・愛荘町在住の小学生
【申込方法】
各小学校に配布、もしくは当館ホームページに掲載する案内チラシの申込用紙に記入し、持参・郵送・ファックスのいずれかの方法でお申込み下さい。
【申込期間】
6月15日（月）～6月30日（火）
（当日消印有効）
＊傷害保険料200円が必要です。

世界遺産 彦根城を世界遺産に
彦根城はユネスコの世界遺産暫定リストに登載されており、世界遺産をめざしています。

編集・発行
彦根城博物館
〒522-0061 滋賀県彦根市金亀町１番１号
TEL 0749(22)6100 FAX 0749(22)6520
http://hikone-castle-museum.jp/
この印刷物は 8000 部作成し、印刷単価は７円です。